

サーキュラー・エコノミー（循環経済）の促進に向けて！！
木材資源が持つ社会的役割と新たな価値の創出を！！

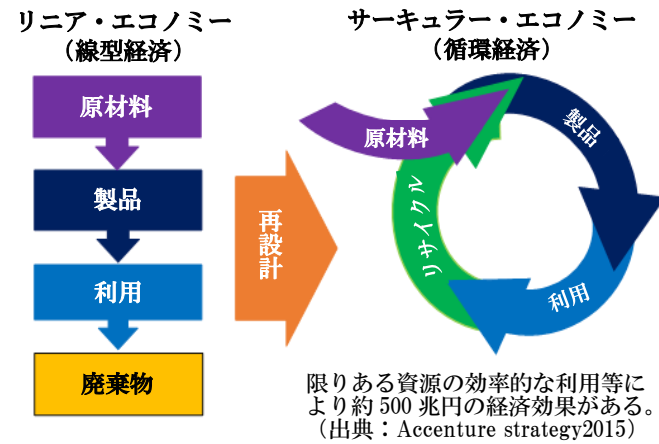
株式会社 山西 あすなる会顧問
代表取締役社長 西垣 洋一

＜「サーキュラー・エコノミー（CE）」への転換の背景＞

- ① 世界的な人口増加・経済成長に伴う消費拡大と将来的な資源制約のリスク
 - ② 国内外の廃棄物問題の顕在化
 - ③ 地球温暖化や海洋プラスチックごみ等の環境問題と環境配慮要請の高まり
 - ④ ESG 投資の拡大とデジタル技術の発展
- （経済産業省資料より抜粋）

循環経済・サーキュラー・エコノミーとは

近年、国際的に広まりつつある概念であり、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした経済システム（線型経済・リニアエコノミー）から脱却し、持続可能な成長を実現するための新たな経済システムを言う。資源や自然エネルギーに限りがある中で、経済活動のなかで廃棄されていた製品や原材料などを「資源」と捉え、リサイクル・再利用などで活用し、資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、付加価値の最大化を図る経済モデルとしての転換の必要性を求めています。



一方、世界の人口は増え続けており、2060年には100億人に達すると予想され、OECDの調査によれば、2060年までに世界全体の資源利用量は2018年比で2倍に増加すると推計されます。しかし地球の資源は限られており、WWFによると、既に人類全体の生活を支えるには地球1.5個が必要になると試算されています。又、世界中の資源がどれだけ循環しているかを測るサーキュラリティ（循環性）では、2020年時点でたったの8.6%と言われており、資源の循環利用は思うように進んでいないのが現状です。

再生エネルギーの根本である木材資源の有効活用を！！

木材は鉄やアルミニウム、プラスチックなどの枯渇性があり、自然界ではすぐに分解できない有限資源とは異なり、自己の生命力と太陽エネルギーによって資源そのものの再生産が可能。尚、「刈って、使って、植えて、育てる」という基本原則を守れば、木材は人類が持続的に確保できる資源でもあります。又、森林資源を有効活用することで、林業や木材産業、建築業、解体・リユース/リサイクル業など、関連するあらゆる経済圏（サーキュラー・エコノミー）に貢献することが可能です。更には、製造加工時の二酸化炭素排出が少なく、炭素貯蔵機能を持つ木材は、脱炭素社会やカーボンニュートラル、SDGsの実現に大きく寄与します（右図参照）。

我々木材住宅業界としては、こうした木材が持つ可能性を今一度見つめ直し、本来のあるべき木材の価値をより幅広く創造していく必要があります。木質資源は、人類が生命を維持する上で重要な産物であり、人々に安心感や安らぎをもたらす、地球温暖化を防止し、酸素を放出してエネルギー資源となり、建築等の資材となります。価値ある資源の価値をさらに高めることができるのはその恩恵を受けている我々業界の役目であり使命でもあります。木材を有効活用することは、持続可能な社会の実現には必要不可欠と言え、循環経済の促進こそ我々業界が率先して取り組むべき課題であり、業界の復権に向けて主導権を握るべきではないでしょうか。

木材資源の循環サイクル

- 大気中のCO₂は光合成により木材はCとして固定・貯蔵を続ける -

真の循環型社会の実現のためには低炭素化が重要である。そのためには太陽エネルギーとその所産である木材を利用すべきであり、自然エネルギー・バイオマスがエネルギー源・資源として重要である。幸いにも日本はこれらの資源に恵まれている。



（参考：佐々木康寿 資料『Woodcityの実現に向けて』）